

CTやMRIでも 捉えることができない 「見えないがん」をキャッチする

早期発見・早期治療が大切といわれるがん治療。
最新の医療技術で、超早期のがんの発見が可能になった。

♥ がんの超早期発見で 発症や転移、再発を防ぐ

日本人の死亡原因の1位はがん。がんが原因で亡くなる方は毎年30万人を超え、毎年65万人にがんが発見されています。

日本人にがんが増えている理由は、社会環境や食生活の変化といわれています。肉類を中心とするコレステロールを多く摂る食事によって、日本人の体質は変化したと考えられます。

現在行われているがんの標準的治療は、「手術」「化学療法」「放射線療法」の3つです。がんができた部位、種類や大きさ、ステージによって、最適な治療法を選択します。また、3つを組み合わせる「集学的治療」も普及しています。

それぞれのがんにはステージ(病期)というものが定められています。その代表的なものが、TNM分類です。

●T……原発腫瘍(Tumor)が発生した場所での浸潤増殖の度合。

●N……領域リンパ節(Node)の意。リンパ節に転移している度合。

●M……血行性転移(Metastases)など、遠隔臓器に転移しているかどうか。それぞれを数値で表し、それらを総合して、I期(早期がん)からIV期(末期がん)までのステージが決められます。

がんの治癒率は年々高くなっていきますが、それはあくまでも早期がんの場合で、ステージⅢ、Ⅳのがんの場合、完治させることは困難です。つまりできるだけ早期に発見して、早く治療できれば、がんを治療することはもちろん、体に負担のかからない治療法を選んで、QOL[※]の低下を防ぐことが可能になります。

がんの早期発見を行うためには、いくつかの画像診断法があります。

CT(X線を使う画像診断)やMRI(磁場を利用した画像診断)が技術的に進歩したことで、1センチ以下のがん(Ⅱ早期がん)の発見が可能となりました。

それらにPET(生理学的な代謝的診断)を行うことで、形態と機能、両面から診断することができます。

しかし、これらの画像診断でも完璧とはいえない。腫瘍になる前に血液中を流れているがん細胞は、画像診断では捉えられないのです。

最近では、そんな「見えないがん」をキャッチして、がんを早期発見する検査「テロメスキャン」があります。簡単な血液採取のみで、末梢血浮遊がん細胞(CTC)を調べることができ、細胞レベルでの診断を行うことで、がんの早期発見はもちろん、

がんの再発を予測して、早期に治療を追加・再開することが可能となります。

私は約30年、放射線科専門医として画像の読影を行ってきました。そのなかで、「なぜもっと早く検査に来なかったのか」「なぜ、がんが再発する人が多いのか」と何度も思うことがありました。

「がんは消えました」と医師に言われても、数カ月後に転移や再発するという話は珍しいことはありません。

画像診断機器は飛躍的な進歩を遂げていますが、それでもキャッチできないがんがある。「見えないがん」を超早期に発見することができれば、がんの発症や転移、再発を防ぐことができるのです。

Profile

1985年 福島県立医科大学卒業、日本医科大学第一病院、獨協医科大学付属病院の放射線科を経て、1993年 鷲谷病院副院長。1997年 宇都宮セントラルクリニック(現(医)DIC)開院。2012年 米国財団法人野口医学研究所常務理事就任。

〒105-0001
港区虎ノ門1-22-13
虎ノ門秋山ビル2F
TEL:03-6205-4030
<http://www.noguchi-idc.jp/>



野口記念インターナショナル
画像診断クリニック
佐藤 俊彦 院長